

「いのちの日」の校長講話

校長 荻原 隆行



1学期が無事終了し、本校では32日間の夏季休業日に入ります。生徒たちが各学年に合った充実した夏休みになるよう願っております。保護者の皆様には1学期中のご支援・ご理解に心より感謝申し上げます。猛暑の夏となりそうなので、お身体にはくれぐれもお気を付けください。

7月6日(月)の本校「いのちの日」に、朝礼で話した講話を掲載しますのでお読みいただければ幸いです。

本日は本校では「いのちの日」としています。そして、今週は「いのちを大切に考える週間」としています。そこで、今日の朝礼ではいのちの大切さについてお話をしたいと思います。

2、3年生には昨年の「いのちの日」に、相田みつをさんの「いのちのバトン」の詩を紹介しました。1年生のために、まずはその話を少しします。2、3年生は思い出してみてください。

みなさんは、自分の命にどれくらいの人に関わっているか、考えたことはありますか？自分の命は父と母の2人から生まれます。その父と母の命もそれぞれの父と母の2人から生まれます。つまり、2代祖先まで遡ると4人の男・女が自分の命に関わっていることが分かります。こうやってさらに遡って数えていくと、自分の祖先は、8人、16人、32人…と増えていくわけです。10代目まで遡ると、なんと1024人の人が自分の命に関わっていることが分かります。1代で約30年と考えると10代上の祖先は、約300年前。300年前と言えば、1700年代。これって何時代かと言えば、まさに江戸時代の真っただ中。8代将軍徳川吉宗さんが、歴史で習った享保の改革に取り組んでいるころですね。なんとその時代に生きていた1024人の祖先達はそこから誰一人、途切れることなくあなたへ命をつなげてきたんです。その後の時代には、世界大戦の戦争があったり、大規模な震災があったりしたけれど、あなたの祖先達は命をつないでてくれました。命のつながりって奇跡的だと思いますか。そして、あなたもこれから命をつなげていく一人です。あなたの先に命の誕生を待っている子孫がいっぱいいます。ですから、決して命を落とすようなことがあってはならないのです。ここまでが昨年のお話でした。

今年は、また別な詩を紹介したいと思います。吉野弘(よしのひろし)さんの「生命は」という詩です。

「生命は」 吉野 弘

生命は 自分自身だけでは完結できないようにつくられているらしい 花も めしべとおしべが揃っているだけでは不十分で 虫や風が訪れて めしべとおしべを仲立ちする

生命は その中に欠如を抱き それを他者から満たしてもらうのだ 世界は多分 他者の総和

しかし 互いに欠如を満たすなどとは 知りもせず 知らされもせず

相田みつをさんの詩は、時を越えてつながった縦の命のものでしたが、今回の吉野弘さんの詩は、今、同じ時を生きている横の命のつながりの話です。

私たちは、常に他の命によって支えられているのです。皆さんがこうして毎日生きていられるのはお父さんやお母さんが働いて、ご飯を食べさせてくれたり、住むところを提供してくれたりするからです。友達にも支えられていますね。また、いろいろな人が食物の材料を育て、作り、運び、みなさんのもとに提供してくれていることも支えです。牛や豚、植物は自分の命を提供してくれています。

また、同時にみなさんも他の命を支えています。お友達を支えていたり、精神的な面で親を支えている人もいます。いずれ働いて、誰かの命を支える仕事をするのでしょうか。

この世の中は、お互いがお互いの命を支えていると言えるのです。これは一般的に、「おかげさま」ということばで表すことができます。おかげさまで、私もあなたも生きていられるのです。ぜひ、お隣にいる人にも感謝の気持ちをもったり、おかげさまという気持ちをもったりしながら生活できるといいと思います。

今週、いろいろな時間についていのちの大切さについてお話があると思います。みなさんもぜひ、この機会に、いのちの大切さについて考えてみてください。

ボランティア活動が育む「見えない学力(非認知能力)」

本校では、年間 1 回以上のボランティア活動への参加を積極的に呼びかけています。学力には、テストや成績で測ることのできる「見える学力(認知能力)」だけでなく、人と関わる力、相手を思いやる力、自ら考えて行動する力など、「見えない学力(非認知能力)」があります。ボランティア活動は、まさにその力を育てる貴重な教育の場です。

これまでボランティア活動に参加した生徒の皆さんから、活動の記録とともに感想も添えてもらっていますので、ここでご紹介します。

今年度ボランティア参加生徒の感想から



○地域の子供達ともふれあえて楽しかったです。

○地域の人ともコミュニケーションも取れてよかった。

○地元の若い人(10代や20代の人)の参加が少なく、地域の人から来てくれてありがたい存在だと思った。

なので、なるべく参加できると良いと思った。

○早起きするのは大変だったけれど、地域の方々に挨拶するのが楽しかったです。

○通りすがりのひとや、クラスメイトの人に「おはようございます」って言うと、返事を返してくれる人が多くて、自分も沢山のの人に、「おはよう」と言って、挨拶を心がけようと思いました。

○夏祭りのポスターイラストということで良い紙に描くことが新鮮だったので楽しかったです！ただ、もっと計画的に進めるべきだったなと反省しています。

○フワフワフェスティバルふわふわでふわふわ道具に、遊びに来る小さな子ども達のお世話のお手伝い。ボランティア活動をして地域の方のお手伝いやお世話をする事ができてとても良い経験になりました。地域の方とお話をする事ができたり、小さな子ども達ともお話をして見守ることができて良かったと感じました。ボランティア活動をすることによって、地域の方とのコミュニケーションができて人の役に立つことは良いことと考える事ができました。忘れない思い出になりました。とても楽しかったです。

○ふわふわ遊具の中に小さい子達を入れるための係と中で一緒に遊んだり見守るなどいろんなことをしました。取り組んでみて、自分も小さいときにふわふわを遊んだ時があったのでその頃に側にいた中学生と同じ事ができてよかったです。

○とても自分が成長できたと感じた。これからもこのような活動をしていきたい。

○誰かが楽しそうにしていると、このボランティアをやってよかったなと思いました。

○朝が早かった。

○おはようコミュニケーションデー:地域の人、学校に来る子に挨拶をする 感想:みんな大人気で挨拶をして大きい声で返事をすると返事をしてくれる人もいて 嬉しい気持ちになった!これからも行ける日があれば参加したいです!

○疲れたけどとても楽しかった。



以上、多くのとても前向きな感想が寄せられており、学びや気づきのある貴重な経験となっています。

誰かのために行動することは、決して特別なことではありません。小さな親切や奉仕の積み重ねが、人とのつながりを生み、自分自身の成長につながります。こうした経験は、将来社会に出たときにも必要となる主体性や協働性、責任感を育てる大切な財産となります。

教育の目的は、知識を身に付けることだけではありません。学んだことを社会の中で生かし、よりよい社会をつくる一員として行動できる人を育てることです。ボランティア活動は、その第一歩です。

これからも本校では、生徒一人一人が地域や学校に貢献する喜びを感じ、自ら進んで行動する経験を積み重ねることができるよう支援してまいります。一人でも多くの生徒が、その大きな一歩を踏み出してくれることを期待しています。

祝 南中生の活躍



🏸 バドミントン部

令和8年度八王子市中学校バドミントン選手権大会
男子団体5位入賞! 女子団体5位入賞!
女子ダブルスペア第3位!

⚽ サッカー部

令和8年度東京都中学校サッカー選手権大会
第7支部代表決定! 都大会進出!